



南種子町ボランティアグループともしび（南種子町）

発表者：山 下 五十鈴 氏

皆様、こんにちは。私は、南種子町のボランティアグループともしびの会長をしています、山下五十鈴といいます。本日は、このような会場で、身に余る表彰や事例発表の機会をいただきましたことに対し、会員一同この上もなく喜び、光栄に思っております。本当にありがとうございます。

なお、このような会場で、大勢の人の前で発表することに不慣れです。早口になったり、お聞き苦しい点があろうかと思いますが、どうぞよろしくお願いします。

それでは、早速発表に移りたいと思います。

私たちの住んでいる南種子町は、古くは鉄砲伝来の地、そして現在は科学の最先端、ロケットの打ち上げ基地を有する種子島の南端に位置し、太平洋からの朝日と世界遺産の島・屋久島に沈む夕日を眺めることのできる自然に恵まれた地域です。

人口は現在、6,000人を切り、5,977人、高齢化率は32.4%となっており、少子高齢化と人口減少が進んでおります。

まず、ともしびグループの歩みを簡単に説明します。

平成元年当時の鹿児島県婦人会会長、今はもう亡くなられました南ツギ工様の提案のもと、「地域に小さなともしびを灯しましょう」という呼びかけがきっかけで、初代の会長が、独居老人や老人世帯が増えてきている中、行政や地域の若者に頼るだけでなく、私たちのようなちょっと若い高齢者でもできることをしようということで、自分たちも元気になるように、そして茶飲み友達的な訪問活動をということで、高齢者の寂しさや不安、それから





認知症予防に少しでも役立てたらと、当時の婦人会組織とは切り離れた形で、有志28名によるボランティアグループを設立、26年目を迎えております。41名の女性のみの会員で活動を行っております。



次に、主な活動内容ですが、設立当時は会員も少なく、予算的にも全くない状態のスタートでした。幸いにしているいろいろな特技を持った会員の人があり、活動にも一役買ってもらいました。敬老の日やクリスマスの日、高齢者宅への訪問活動、高齢者お楽しみ会の開催、施設訪問、自主研修です。

私たちの活動の一大行事は、80歳以上の高齢者を招いてのお楽しみ会の開催です。思えば26年前、最初のころは鍋・釜を持参し、町内8地区の公民館を訪ねて、お招き会と銘打ち、



お弁当を作り、ゲームなどをして一緒に楽しんでやってきました。平成10年からは、町内の施設にある温泉センターに、町内を3地区に分け、3日間かけて温泉入浴、昼食会、警察の方からの交通安全指導、そして最近はおレオレ詐欺の事件、「ひっかからないようにし

ましょう」と声をかけながら、そういうことや、各地区婦人会や各種団体からの余興など、高齢者はもとより、参加者全員で大声で歌ったり笑ったりと笑顔の絶えない楽しいひとときを過ごしております。また、参加した高齢者の人たちからは、「久しぶりにたくさんの人に会って話もでき、大声で笑った。」「10歳若返ったような気がする。」と嬉しい言葉をかけていただき、逆に元気をいただきます。

また、設立当初から行っている訪問活動は、私たちのグループの原点ともいえる活動であります。過疎の進む中、子どもたちは故郷を離れ、老いた両親だけが地元で暮らしている地域では、寂しさと一抹の不安を抱えながら生活している高齢者の姿がありました。そこで、会員を12グループに分け、日ごろの活動として、75歳以上の独居老人宅を月2回訪問し、「あ



きばあちゃん、元気かい。」という声かけから始まります。ちょっとした庭の手入れや、お茶を飲みながら子どもや孫の話に花を咲かせ、その中から心配事や悩み事などを聞いたり、元気を取り戻せたらと、今でも継続して行っております。中には、来る日を楽しみにして待っている高齢者の方も多く、半月の出来事や子どもや孫たちのことを嬉しそうに話してくれます。長居をしてしまうこともしばしばです。

そして、日常訪問活動とは別に、敬老の日とクリスマスの日には、前もって会員が集まり、郷土料理や手作りのふくれ菓子、そして、手作りの小物をプレゼントに持参して、グループに分かれて地域を訪問します。



そのほかの活動としては、町内にある福祉施設を初め、島内の施設慰問をして、歌を歌ったり、お手玉をしたり、昔話に花を咲かせています。また、会員相互の親睦を深めるため、



年数回の研修会と茶話会も行っております。

主な活動について説明しましたが、私たちのグループも、現在こそ41名の会員で活動しておりますが、設立当初は私たちの活動自体、地域の方々を初め、関係機関の人たちにもなかなか理解してもらえないことが多く、

大変苦労したと伝え聞いております。ヘルパー制度も充実していない時期、高齢者宅へのボランティアとして、見守りの活動が徐々に理解され、地域で孤立しそうな高齢者へ普段の声かけなど、本当に小さなともしびのごとく町内の隅々に灯り始め、その輪が広がりつつあることに大変嬉しく思っております。

高齢化が進む中、行政としても、かゆいところに手が届くほどの支援を全てできるわけではありません。一人でできなくても、2





人、3人集まれば何かができます。自分たちでできることは自分たちで行い、できないところは行政や関係機関にお願いする。そして、住み慣れた地域で長く元気に暮らしていくため、今後の訪問活動を通じて、地域の高齢者福祉サービスの普及・推進を手助けしたいと思っています。



しかしながら、会員の高齢化が進んでおり、支援される側へなりつつある中、若い人たちの会員募集が私たちの1つの課題となってきました。

最後になりますが、若い人と高齢者の接点の少ない今日、ごく自然に普段から挨拶や声かけができる、ほのぼのとした地域づくり、人づくりを目指して、地域の中で支え合い、助けて生活していくことが大切だと思います。

先にも述べましたが、職場を求め都会へ出て行く子どもたちを責めることはできないと思います。だからといって、親を都会へ呼んで生活していくには親も子も大変じゃないかと思っています。であるならば、高齢化の進んでいく地域においては、地域の中で支え合う社会をつくる必要があると思います。

私たちは、高齢者への声かけがボランティアだと思い、日々活動をしています。いずれは、自分も支えられる立場になると思います。それまで、自分のできることをできるときに無理をせず、自分も楽しみながら活動を行っていきたいと思っています。そして、子どもたちに自分たちの姿を見てもらい、その輪が広がって、小さなともしびが南種子中に灯ることを願ってやみません。

拙い説明で、お聞き苦しい点があったかと思っています。

ご清聴ありがとうございました。(拍手)